

すばらしい運動会で始まった2学期も熱さが和らぎ過ごしやすい季節になってきました。今回は、本校が会場校となって行われた四国中央市内三高校人権委員交流学習会と2学期始めの市内の教職員研修会について報告します。

## 1 第8回四国中央市内三高校人権委員交流学習会(7月20日(金)) テーマ:「郷土の偉人・安藤正楽の生き方に学ぶ」

市内の人権委員や教職員30名が本校会議室で、開会行事・事前学習を行ったのち、暁雨館での講話・意見交換を経て、八坂神社を見学しました。土居町出身の正楽さんは、明治法律学校で国際法を学び、差別が厳しかった100年以上前に「平和で平等な社会」を目指して具体的な行動を次々と起こされました。(以下を参照)

① 差別のために学校に行けない子どもが放置されていた現状を改めるよう、何度も県議会で訴え続け、ついに視学官(教育委員)に改めていく約束を取り付けました。学校教育の平等を初めて議会に訴え、教育の機会均等を大きく前進させました。

② **当時軍国主義の日本にあって、八坂神社の日露戦争戦没者慰霊碑に「忠君愛国の四字を滅する他ないと我は思う」という戦争反対の意見を堂々と書きました。**石碑の字を消されるなど圧力に遭いながらも、正しいと思ったことは堂々と述べる姿勢を貫きました。

③ 当時あまり豊かでなかった地域の人々ために自費で水道を引いたり、芸術作品や工芸品を造り、経済的なサポートを試みました。(以下は、参加した人権委員の感想)

- ・ 今回の交流学習会に参加して、正楽さんが差別解消のためには、「教育の機会の平等と充実こそ重要である」と考えていて、県議会で実際に行動したことを知ることができました。
- ・ 正楽さんが、戦争の過ちを主張して忠君愛国の思想を捨てるべきだと示したことを知り、自分も正しいと思ったことに勇気をもって行動できる人になりたいと思いました。



暁雨館での聞き取り学習



八坂神社での現地研修

## 2 人権・同和教育講演会「～ネット社会の差別は、今～」

講師:川口 泰司さん 山口県人権啓発センター事務局長 8月29日(水)

上記の講演会に本校教職員も多数参加しました。6・7月号では中学生対象の講演の内容をお伝えしました。今回は、前回の内容にプラスして話されたことを紹介します。

今、世界では偏見を持ち差別を扇動する人たちがネットから若者を取り込み、差別的な街頭運動に利用することが増えています。障がい・人種・出身などにより差別を受けやすい少数派の人たちに向かって大声で「出ていけ!」「死んでしまえ!」などの存在を否定する絶対に言うてはならない言葉を若者に叫ばせ、自分たちの隠れ蓑・防波堤にする狙いです。このようなとき、言わされている若者は自分が正しいと信じ込んでいるのが怖いところです。「人権問題に関するものでアクセス回数が多いものはほぼデマ」、「差別は悪い人がするのではなく、無知(知識不足)による偏見から起こる。」(川口さんの言葉)ことを思い出し、正楽さんのように正しい知識を学ぶ努力をし、周囲の人々と平和共存する考えを持つことが、情報に惑わされずに生きていく指針ではないでしょうか。

